

# お茶の時間



診療を終え、恒例の節分の豆まきをスタッフたちと楽しんだ。「年の数だけお豆食べるのよ〜」「エーッ、食べられない」「大先生 いっぱいだよ」と言いながら口にほおりにむ。モグモグ。手には豆。鬼は外〜！ 福は内〜！ 美人スタッフ揃いで鬼はクジクジなろう。院長も、大先生も勢よくまく。今年もみんなお豆まき。良いことがありますように。翌日、早速雪に埋もれた豆をガラスがつついていた。

近頃、物事の悪い面ばかりに着目し、人を傷つけるようなやり方での報道が多過ぎる気がする。いじめはいけないと諭す大人が、真実と「思ッヤリ」心に留めたいな。



心に響く言葉

じゃんけんポン、あいこでしー、あいこでしー!!

他合点ない子どもの遊び、幼い頃から慣れ親しんできたじゃんけん。物事が甘くないか決まらぬ、時の手段として、身近なもので遊ぶ気分が決められるじゃんけん。昔は、もと中固で起ったもので二人が向かい合って掛け声をかけながら手や指先の変化で勝負を争う酒宴での座興だったそう。それが江戸時代、元禄初期に日本に伝わり、じゃんけんのさまざまな変種が考案されたという。

日本人の考え出した拳は、三すくみになっているのが特色で、石・鎌・紙で勝ち負けを決める。一回で勝負がつくこともあれば、あいこか何回も続くこともある。三者のうちどれが一番強いという話はない。「丁・羊・表・裏」のような「2」の対立関係ではなく、3であることにより、他のひとつには勝つが、もうひとつには負ける状況が嬉しい。余計なもの一つ加わったお陰で、真剣にもなり、笑いや仲間意識が生まれる。大抵が日本人に似合う気がする。勝つのも負けるのも怒りもなさそう。

子どもも、大人もくじ引きで決まったこととは少し違った面白さ、楽しさを感じる小まませんか？

小学校などで毎年春になるとPTAの役員選びでじゃんけんが登場するらしい。子田歯科医院のママさんスタッフも今からドキドキ。我が子のためと思いつくなら、頭の痛い季節と感じているように笑って笑ってじゃんけんぽんぽん。負けるが勝ちよ、じゃんけんポン!



## 歯のよもやま話 第三十六話

### 歯と落語

今回は落語に出てくる歯の話です。とは言うものの、意外と出てくる場面がないのです。意外じゃないって？

まずはマクラから。はなしのマクラというのは、落語家が高座に上がって、本題の前に軽く話す小話や雑談の事で、ここでその日の客の様子を見たり、本題の予備知識をそれとなくしたりして場を和ませ本題に導入する大事な部分です。

ふられた男がモテたふりをするため、自分で自分の腕に噛み付いて友だちに自慢する……女の噛み付いた痕にしちやあ、大きいね」「そりやそうさ、笑いながら噛みつきやがったんだから」

長屋の花見 貧乏長屋で大家の肝いり酒(番茶)、たまごやき(たくあん)、蒲鉾(大根)などを持って花見に行く。このマクラで「長屋中歯を食いしぼる花見かな」とやる必要があります。

マクラはこれくらいにして本題へ  
元犬 人間に生まれ変わろうとして

白犬が目黒不動に願掛けし、願いかなって人間になりますかどうも勝手が違う。「干物があるんだがどうだい?」「ええ、干物なら大好物です。あれなら頭から食べちゃうんです」「あ、歯がいいんだねえ」「ええ、歯が良いんですよ。咬みあつたつて負けねえんです」

牛ほめ いつもぼけつとしてる吾太郎。親父が心配して伯父さんが新築したので小遣いでももらえたらと褒めに行かれます。台所の大黒柱の上に節穴があつて気にしているから、秋葉様のお札を貼れば穴も隠れて火の用心になるとい

えば小遣いは倍になると知恵をつけます。ついでに牛も褒めてこいと極意を授けます。牛は天角、地眼、一黒、鹿頭、耳小、歯違うと褒めるのだ、角は上を向いたのがいい、眼は下を見ているのがいい、黒くて頭は鹿に似たのがいい、耳は小さいのがいい、歯違うというの歯は食い違つたのがいい。そう褒めとけばまちがいはない。と暗記させます。牛を褒めていると糞をしたので伯父さんが牛もいのが糞は困るとこぼすと、与太郎はこぞとばかりに「穴の上に秋葉様のお札はりなさい。屁の用心になる」。

佃祭 小間物問屋次郎兵衛は佃祭に出掛けます。祭りを楽しんで終い船に乗ろうとすると、見知らぬ女に袖を引かれ、終い船は出てしまいます。女は三年前金を失くし吾妻橋から身投げするところ五両頂き助かりましたと話し、女の家でご馳走になつていたら、船が沈没し全員溺れ死んでしまいました。次郎兵衛の自宅では沈没で大騒ぎ。死んだと思つて仮通夜をしていると、次郎兵衛が戻ってきた。

坊さんは「女の命を救つた為、自らの命を救つたのです」とお説教。それを聞いた与太郎は「身投げしようとしている女に五両あげれば自分の命が助かる」と思い込みます。五両工面し、橋の上で見張つていると、袂に重いものを詰めた女が涙をためて川へ向かつて手を合わせている。これぞ身投げと大喜びで、「これこれ身投げはよしなさい、五両あげるから」

「身投げじゃないよ。歯が痛くて戸隠様にお願ひしていたんだ」「袂にたくさんの石が「これは、お供え物の梨だよ」。歯痛の時は梨に名前と痛い歯の部位を書いて川に流して戸隠様に願を掛けると治るといふ俗信がありました」

子田晃一

# まさかの大雪

シーンと物音がしつづいた朝。雪が全くなかった私たち地区が、突然、積雪80cmの世界に変わった。

1月11日夜、「この調子だとだいぶ積もる。明日は6時から雪かきだな」と夫。夫は豪雪地高田(現在上越市)生まれ。2cm以上の積雪は当たり前だった。子ども時代を過ごしているからか、教士センターの雪など何とも思われない。

とは言うものの、高齢者の仲間入りした私たち。一晩での積雪量にあたふた。診療所の駐車場の四分の一ほどは、消雪ホースで前夜から井戸水を流していたので、患者さん用教台分と、スタッフたち用は取り敢えず確保できたが、他は雪の山。

夫と息子は除雪車がかかした雪でふさがれた駐車場出入口の除雪から始めた。私は職員玄関までの雪と格闘。一時間かかすようやくたり着き、玄関を開け、診療所の中から患者さん用玄関の鍵を開けた。汗だくだ。

お風呂で一息つき、サッパリして自宅隣接の診療所に。スタッフたちが全員揃ったのは11時近くに。無事の到着に安堵した。

普段なら20分程度のバス通勤のバイトの先生は、バスに乗車後、殆ど動きが止まった。バスに閉じ込められた状態になった。私たちが西は坂が多い。あちらこちらで立ち往生。そんな光景が見られた。

一気に降った大雪で、患者さんたちも自宅から車を出せず、徒歩で来院してくださった。

朝一番の患者さんのお一人は、「歩き始めたら途中で挫折。自宅に戻ると、連絡がなかった。大雪の初日は、夜の患者さんたちのキャンセルが続出。早めに終了した。」



こんなに降るなんて... 豪雪地と違い、雪に弱い新潟。診療所駐車場に置いた院長の車、雪がクルマに。車庫に入れた私たちの車は出せなくなった。

駐輪場の屋根



診療所出入口もふさがれ、院長。朝7時頃。雪掘りをする。(撮影 大先生)

大学の共通一次試験の日、毎年雪に悩まされる。今回は、四口から80cmと、ビックリの降り方。当然ながら先ずは道路の確保と、除雪車がフル活動。新潟大学までの道路の除雪が最優先となり、結果、他の道路の除雪が後々にならなう。とうとう私たち地区の路線バスは、三日間も運休となった。

難儀なことも、過剰には笑いがあがらぬ苦勞話に。体を雪の壁に押しつけて道を作ろうとしたが、全然ダメ。と、患者さんか、スタッフと交りに話すと、状況も思い浮かべて聞く側は大笑い。子どもの踏んだ後に続いた、スボットはあまり足が抜けなくなった。子どもも、軽いから頑まないのね。又笑いが起こる。皆、同様の体験をしてるので、領事なかり笑っている。和やかな空気が待合室に広がった。



スロープ出入口からスタート。職員玄関まで1時間かじ除雪。自宅の薪棚も、雪に埋もれて。

診療所前、屋根は雪どみぬい。3日間運休になったバス。道野の車。911で新潟駅に。深原、家の2階から撮影。

「こんな大雪、初めてです。今朝生ゴミ出し、6時5分、足跡、お隣の小林さんの足跡のみ。その跡をたどり、深々とした道、往復大変でした。」

バスは来ないというので、皆歩き出しました。私も信楽園病院へ、9時半予約。8時半家を出て歩くこと50分。ようやく来てみれば、Dr.おらず。処方箋を貰い、帰りは都合良く遅れたバスに乗り、11時にやっと帰宅。大変でしたが、90歳まだ少し体力あるのを確認できました。

信楽園は閉鎖してしまいました。この雪で、子田歯科一医院も大変だね。と夫婦でしゃべっていたとこです。一月十二日(金)ご苦労様です。

12日朝、診療所や自宅周辺の様子も写真で送信した時の叔父からの返信メールだ。当日は、救急も届くのが遅い。患者さんにお詫びしたり、色々あった。

除雪車来ずに臨時休診した医院も多かったと聞いた。当院の患者さんは、ハイパーがある。遠くても歩いて来院して下さったのだ。歩道は雪で歩けないので、車道も。どうにか通れる道を車もノロノロ、人も慎重に歩く。大変だったでしょう。

余談だが、全国一有大学共通一次試験も秋に変更出来ないものだろうか。平等じゃないなあ。

毎年、毎年、受験生も、親も悪天候に大きなため息のよ、雪国では。

寒い日が続き、凍結の原因で、佐渡市の一部、水道管破裂し断水が起きた。水は大切な。新潟市西蒲区でも破裂による漏水で断水措置をとった。コンビニの棚、トイレなどの飲料水が売り切れた。大雪で私たちの住む西は宅配は断わられ、島である佐渡は、船が欠航になれば物資も事欠く。

立春を迎えたが、新潟県内、雪のニースが続く。去年は一月に輪一回回ったのに。

「引号、よもやま話」の中で、半面思惟像の価は、脚が正しいです。

月のつばやき